＜様式２＞

令和３年度　さいたま市立城北小学校　学校関係者評価書

さいたま市立城北小学校

学校関係者評価委員長　　古宮　芳彦　㊞

１　学校関係者評価の実施体制

（1）構成人数　　６名

（2）実施回数　　３回　(うち１回は紙上開催)

２　学校関係者評価（学校関係者評価委員の意見等）

・コロナ禍での学校での指導が大変なことが分かりました。ご苦労様です。
・青少年育成会での図画展示の御協力ありがとうございました。展示作品から、児童の想像力、感性が素晴らしいと感じた。今後も、想像力、感性を伸ばす教育をしてほしい。
・児童と教職員が向き合う時間を確保し、引き続き向き合う時間を作ってほしい。
・トイレの改修等で改善されてきているようで喜ばしいことである。
・自治会としてスクールゾーンを作る計画をしているので、進捗状況は適宜情報提供していく。
・「あいさつ」は、児童が思うほど、周り(の大人)は「今一つ(未だにできていない)」と感じているようだ。
・班長があいさつすると、あいさつする児童が多い。
・「喜んで登校している」「授業が楽しい」「思いやり」の項目は、児童にとっては、重要な事項だが、保護者と児童に差がある。
・思いやりの評価は、児童の前年度も今年度も 90%以上の評価では、いじめのない学校評価と判断できる。
・毎年、そんなに変わらない感じがする。
・下校中に、じゃんけんで負けると荷物持ちをするなど遊びながら帰る姿を見かける。
・コロナ禍で休んでいる児童、職員がいるなど身近にコロナが流行っていることが分かり驚いた。
・ゾーン 30 など交通関係がだいぶ整理されてきたように思う。
・今後も地域で、事故・怪我が無いよう見守っていく体制が必要である。
・地域の方々に感謝しかない。
・(自分の)子どもの話から担任の先生の熱意が伝わってくる。
・SNS とか LINE など、学校外での問題が顕著になって来ている。
・家庭で、どう使っていくか、児童にどう伝えるかが課題である。
・今後、スマホ教室などの指導は、低学年から保護者を巻き込んで必要な指導になっていく。

学校関係者評価を受けた学校の対応

・児童一人ひとりを大切に「わかる授業づくり」を目指し、学校課題研究の取組を充実させ授業改善を図っていく。個性に応じて児童が達成感を持てる指導に努める。
・生徒指導委員会等、組織での情報共有をさらに徹底し、多様な専門職を有効活用して、いじめのない信頼される学校づくりに全教職員で取り組んでいく。
・児童の安全、安心を第一に環境整備を進めていく。図書室が狭いので拡張するよう次年度も市への要望も含めて、できる限りのことをしていく。
・コミュニティスクールを視野に入れて、開かれた学校、多様性に応えられる学校づくりに取り組み、保護者、地域の皆様から、さらに信頼される学校にしていく。
・教職員の働き方改革をさらに推進していく。

さいたま市立城北小学校長　　西　谷　健　児　　印

※　Ａ４　１枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。